

令和7年度

東洋学園高等専修学校教育自己診断アンケート

調査結果報告書

令和8年5月1日  
学校法人 東洋学園  
東洋学園高等専修学校

<調査の概要>

1. 調査の名称

- 『令和7年度 学校教育自己診断アンケート』

2. 調査の目的

- 教育活動全般をはじめ学校運営・施設・設備の整備等現状について自己診断し、今後の教育活動について短期・長期的計画を立て改善と推進に資する。

3. 調査の方法

- 『無記名自記式質問紙調査法』

4. 調査対象期間

- 『令和7年4月1日～令和8年1月31日』

5. 調査の実施者

- 東洋学園高等専修学校 学校教育自己診断調査係（運営委員会）

6. 調査対象人数

- 生徒・・・162名
- 保護者・・・162名
- 教職員・・・16名

7. 質問項目

- 生徒（15項目）
  - 学校生活・学校活動に関する質問
- 保護者（12項目）
  - 教育活動等に関する質問
- 教職員（20項目）
  - 教育活動・学校運営・学校経営に関する質問

## 令和7年度 学校教育 自己診断アンケート集計（生徒）

	診断内容	A				B				C				D			
		そう思う				どちらかと言えばそう思う				どちらかと言えばそう思わない				そう思わない			
		1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
1	学校生活は楽しい。	39.6	47.6	42.9	43.1	49.1	31.0	30.9	37.9	11.3	14.3	11.9	12.4	0.0	7.1	14.3	6.6
2	授業は専門性を高める内容となっている。	50.9	59.5	69.0	59.1	47.2	33.3	21.5	35.1	1.9	4.8	2.4	2.9	0.0	2.4	7.1	2.9
3	各コースにおいて、資格取得や検定試験の合格に力を入れている。	45.3	45.2	66.7	51.8	45.3	47.6	23.8	39.5	7.5	2.4	0.0	3.6	1.9	4.8	9.5	5.1
4	専門教科は実習も充実していてわかり易い。	47.2	52.4	57.1	51.8	49.0	38.1	23.9	38.0	3.8	7.1	9.5	6.6	0.0	2.4	9.5	3.6
5	先生は、学習で努力したことを認めてくれる。	54.7	52.4	47.6	51.8	37.8	35.7	40.5	38.0	7.5	7.1	2.4	5.8	0.0	4.8	9.5	4.4
6	先生は、生徒のプライバシーを守っている。	56.6	40.5	59.5	52.6	34.0	38.1	21.5	31.4	7.5	14.3	9.5	10.2	1.9	7.1	9.5	5.8
7	相談や授業の質問等、先生に話しやすい。	35.8	42.9	50.0	42.3	51.0	38.1	35.7	42.4	11.3	9.5	2.4	8.0	1.9	9.5	11.9	7.3
8	学校は、基本的な生活習慣を身につける取り組みをしている。	41.5	45.2	45.2	43.8	49.1	47.6	38.1	45.3	7.5	4.8	4.8	5.8	1.9	2.4	11.9	5.1
9	将来の進路や生き方について、進路学習で考えたり学んだりする機会がある。	52.8	52.4	57.1	54.0	41.5	40.4	31.0	38.0	5.7	2.4	2.4	3.6	0.0	4.8	9.5	4.4
10	命の大切さや人権を学ぶことができる。	54.7	40.5	50.0	48.9	43.4	45.2	23.8	38.0	1.9	4.8	11.9	5.8	0.0	9.5	14.3	7.3
11	社会のルールについて学ぶ機会がある。	23.0	40.5	61.9	53.3	39.6	45.3	26.2	37.2	3.8	7.1	2.4	4.4	0.0	7.1	9.5	5.1
12	年間を通していろいろな行事がある。	64.2	57.1	66.7	62.8	33.9	28.7	19.0	27.7	1.9	7.1	4.8	4.4	0.0	7.1	9.5	5.1
13	学校は施設・設備について、日々整備・点検を行い学習環境の改善に努めている。	37.7	45.2	40.5	40.9	51.0	35.8	40.5	43.0	9.4	9.5	7.1	8.8	1.9	9.5	11.9	7.3
14	学校は、事件・地震・火災などに備えて、避難訓練などを実施して生徒の安全に注意をはらっている。	64.2	57.1	64.3	62.0	33.9	31.0	23.8	30.0	1.9	2.4	2.4	2.2	0.0	9.5	9.5	5.8
15	私はこの学校で学ぶことができ良かったと思う。	54.7	50.0	57.1	54.0	43.4	28.6	23.8	32.8	1.9	7.1	4.8	4.4	0.0	14.3	14.3	8.8

※ 単位は%

## 令和7年度 学校教育自己診断アンケート集計(保護者)

	診 断 内 容	A				B				C				D			
		そう思う				どちらかと言え ばそう思う				どちらかと言え ばそう思わない				そう思わない			
		1 年	2 年	3 年	全 体	1 年	2 年	3 年	全 体	1 年	2 年	3 年	全 体	1 年	2 年	3 年	全 体
1	子どもは、毎日楽しく登校している。	58.8	53.8	40.0	54.3	26.5	27.0	50.0	30.0	8.8	11.5	10.0	10.0	5.9	7.7	0.0	5.7
2	資格取得や検定試験に関して、合格に力を入れている。	35.3	38.5	20.0	34.3	38.3	38.5	50.0	40.0	8.8	19.2	30.0	15.7	17.6	3.8	0.0	10.0
3	教育内容は専門性を高めるものになっている。	50.0	23.1	40.0	38.6	38.2	65.4	50.0	50.0	11.8	11.5	10.0	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0
4	先生は子どもの評価を適切・公平に行っている。	50.0	34.6	40.0	42.9	38.2	46.2	60.0	44.3	11.8	3.8	0.0	7.1	0.0	15.4	0.0	5.7
5	先生は、子どもを理解し、親身になって指導している。	44.1	38.5	40.0	41.4	35.3	46.1	50.0	41.4	20.6	7.7	10.0	14.3	0.0	7.7	0.0	2.9
6	学校は、子どもに人権を尊重する意識を育てようと努めている。	58.8	30.8	20.0	42.9	29.4	53.8	80.0	45.6	11.8	7.7	0.0	8.6	0.0	7.7	0.0	2.9
7	学校は、ホームページやGoogle Classroom等で、保護者に教育方針や必要な情報をわかり易く伝えるよう努めている。	58.8	19.2	30.0	40.0	35.3	53.9	60.0	45.7	5.9	23.1	10.0	12.9	0.0	3.8	0.0	1.4
8	学校は、保護者の相談に適切に応じている。	55.9	30.8	30.0	42.9	32.4	46.1	60.0	41.4	8.8	15.4	0.0	10.0	2.9	7.7	10.0	5.7
9	学校は、進路について適性に応じた指導に努めている。	50.0	38.5	20.0	41.4	38.3	46.1	80.0	47.2	8.8	15.4	0.0	10.0	2.9	0.0	0.0	1.4
10	学校の生徒指導方針について理解している。	50.0	30.8	30.0	40.0	41.2	50.0	60.0	47.1	5.9	15.4	10.0	10.0	2.9	3.8	0.0	2.9
11	学校は家庭との連携や意思疎通を積極的に行い、子どもの健全育成に努めている。	23.0	30.8	30.0	40.0	32.4	53.9	60.0	44.3	17.6	11.5	10.0	14.3	0.0	3.8	0.0	1.4
12	学校行事が充実しており、教育的配慮がなされている。	35.3	30.8	20.0	31.4	50.0	42.3	80.0	51.5	11.8	15.4	0.0	11.4	2.9	11.5	0.0	5.7

※ 単位は%

## 令和6年度 学校教育 自己診断アンケート集計（教職員）

	診断内容	そう思う	どちらかという そう思う	どちらかという そう思わない	そう思わない
1	年間を通じた教育計画の作成にあたり、教職員で話し合っている。	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%
2	教育活動には、他の学校にない特色がある。	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%
3	教育課程の編成にあたり、学習指導要領の趣旨が授業に生かされている。	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%
4	生徒が興味関心を持てるような授業の充実が図られている。	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%
5	生徒の実態に即し、創意工夫した総合的な探究の時間を実施している。	52.9%	35.3%	11.8%	0.0%
6	カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。	52.9%	35.3%	11.8%	0.0%
7	生徒に問題行動が起こった時、組織的対応に努めている。	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%
8	生徒指導において、家庭との協力・連携、必要に応じて警察・少年サポートセンター・子ども家庭センター等の関係諸機関との連携に努めている。	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%
9	生徒指導方針の共通理解と、それに即した丁寧な指導が行われている。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
10	生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じた進路選択ができるよう情報提供を行っている。	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%
11	学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%
12	施設設備の有効活用に努め、部活動の活性化について工夫している。	47.1%	52.9%	0.0%	0.0%
13	教育活動において、生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している。	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%
14	人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。	41.2%	41.2%	11.8%	5.9%
15	障害者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している。	41.2%	47.1%	11.8%	0.0%
16	LGBTQといった性の多様性への理解を持ち、偏見差別のない社会を目指すよう工夫している。	29.4%	58.8%	11.8%	0.0%
17	本校生徒は、全体としては態度よく集中して授業を受けている。	64.7%	29.4%	5.9%	0.0%
18	本校生徒の多くは、レポート・課題等を期限を守り提出している。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
19	本校生徒の多くは、自分の将来や進路について考えている。	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%
20	本校生徒は、校則や決まりをよく守り、規則正しい生活を送っている。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
21	本校生徒は、校外学習や文化祭等の学校行事に積極的に参加している。	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%
22	本校生徒は、生徒会・クラブ活動に積極的に参加している。	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%
23	本校の教育理念や学校運営についての考え方が教職員に浸透している。	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%
24	各分掌が学校運営のなかで重要な役割をはたしている。	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%
25	職員会議等、各会議が、情報交換と課題検討の場として学校運営に生かされている。	41.2%	47.1%	5.9%	5.9%
26	本校の教職員は服務規律への自覚が高い。	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%
27	事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。	52.9%	41.2%	0.0%	0.0%
28	学校生活の場として、生徒がゆとりのある教育環境の整備に努めている。	47.1%	41.2%	5.9%	5.9%
29	施設・設備の充実に向け、日常的に点検や管理され改善が行われている。	41.2%	47.1%	11.8%	0.0%
30	研修は、教育実践に役立つような内容となっている。	11.8%	58.8%	23.5%	5.9%
31	学校内で他の教員の授業を見学して、授業方法等について検討する機会がある。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
32	学籍簿等公簿類の記入、点検が適正に行われている。	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%
33	個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
34	中学校との連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%

● 生徒アンケートからの分析

① 項目 1～4 (授業・学校生活)

- ◇ 学校生活全般において肯定的な意見が全体で8割以上を占めており、生徒は概ね楽しく学校生活を過ごしていることが読み取れる。ただし、2割は学校生活において楽しみを見いだせていない、または感じていないことにも留意する必要がある。
- ◇ 専門教育に関する項目においても9割が肯定的である。生徒の学習意欲と各コースの教育内容が合致し、特色ある教育が展開されている結果といえる。

② 項目 5～8 (生徒理解)

- ◇ 各項目において、8割以上が肯定的な評価をしており、教員と生徒の関係性において、概ね適切な関係の構築が出来ていると推察される。しかし、学年が上がるにつれて、「D」評価が増加する傾向があることも見逃せない。

③ 項目 9 (進路)

- ◇ 進路指導面について9割以上の生徒が肯定的に捉えている。近年の進路決定状況を鑑みても、自らの将来を早い段階から真剣に考え進路実現に向かう生徒が多い。昨年度卒業生の就職・進学希望者はそれぞれの希望する進路に進むことができたが、第一志望に進めなかった生徒が若干名いた。このことが3年生において「D」評価に1割程度回答されている一因かと考える。

④ 項目 10～11 (人権・公共性)

- ◇ 人権教育においても、1年生から段階的に教育計画を実行しており、9割以上の生徒が人権について学び・考える機会を肯定的に捉えている。全ての生徒において適切な人権感覚と、公共性を身につけていくことが今後も重要である。またこの項目においても、学年が上がるにつれて「D」評価が増加する傾向にあるため、次年度以降も数値には注視していく。

⑤ 項目 12～14 (行事・学校設備等)

- ◇ 年間を通して行われる行事について肯定的な意見が9割を超えている。現状に拘泥することなく、中身の充実に関心をもち、生徒が「楽しい」と感じられる行事の充実を図る。
- ◇ 学校全体についての評価として、「私はこの学校で学ぶことができ良かった」という質問項目において8割以上の生徒が肯定的である。しかしながら1割強の生徒が否定的である事実から、どのような観点から否定的な意見が出ているのかをさらに分析し改善する必要がある。

⑥ 項目 15 (全体的評価)

- ◇ 肯定的評価が8割強という結果から、多く生徒は本校での教育・学習内容に好意的である。その一方で、2年・3年の「D」評価が共に1割強であることも看過できない。学習内容・教職員・学校生活全般において、もう一度教員間で現状を精査し、一人でも多くの生徒が本校に入学したことを後悔しないような学校運営を心掛ける。

● 保護者アンケートからの分析

① 項目1～4（授業・学校生活・資格試験・評価）

- ◇ 子どもの登校や授業については8割以上の保護者が肯定的評価をしている。これは、生徒が安定して登校できていることの表れであり、家庭の協力と学校環境への信頼の結果と受け止められる。この結果に満足することなく、全教員が共通の意識を持ち、生徒が登校したいと思うような環境を整備する必要がある。
- ◇ 資格試験における肯定的な評価については2割強が否定的な回答となっている。否定的な回答の背景には、資格試験の合否も直結していると考えられる。コース選択が2年からであり、本格的な資格取得が2年からとなっている。資格試験を受験したとしても合格に至らないケースもあり、3年生でも資格の取得に結びつかないケースもあることからこのような結果になっていると推測する。合格率の上昇に向けては特別対策講座を実施するなどしているが、講習の参加も任意となっており、今後は実施形態の見直しを含めた検討が必要である。

② 項目5～8（生徒理解・情報提供）

- ◇ 全般的に8～9割の肯定的評価を得ている。これについては本校の実践する「ひとりひとりを大切に」という目標と取組がある程度実を結んでいる。情報の提供方法についてはgoogle classroomをさらに有効活用していく余地があり、改善の余地はある。

③ 項目9（進路）

- ◇ 進路指導について、約9割の肯定的な評価を得ており、引き続き卒業時点での進路決定がなされるようにする。
- ◇ 2年生保護者からの「C」評価が1割強あることに関しては、進路に関する情報提供機会を増加させ、早めの進路決定活動につなげることで解消を狙う。

④ 項目10～12（進路指導・学校方針）

- ◇ 概ね9割弱の肯定的な評価を得ている。これに慢心することなく、日々の教育活動においても確な対応で保護者にとって安心できる学校環境の整備に引き続き努める。

● 教職員アンケートからの分析

① 項目1～20（教育活動・学校運営）

- ◇ 概ね肯定的で前向きな評価がされている。教員が意欲的に様々な物事について考え、生徒の成長につながる取り組みを行っていると考えられる。しかし、現状に満足・拘泥することなく常に改善策などを考え、生徒にとって最適な環境を提供できるようにする。
- ◇ 生徒への指導に関して、「カウンセリングマインドを取り入れている」という項目で「C」評価が2割あった。この結果は、教員個々の指導方針に差異があることを示唆している。指導における『あるべき姿』を共有するため、分掌の垣根を越えた協議の場を設ける必要がある。